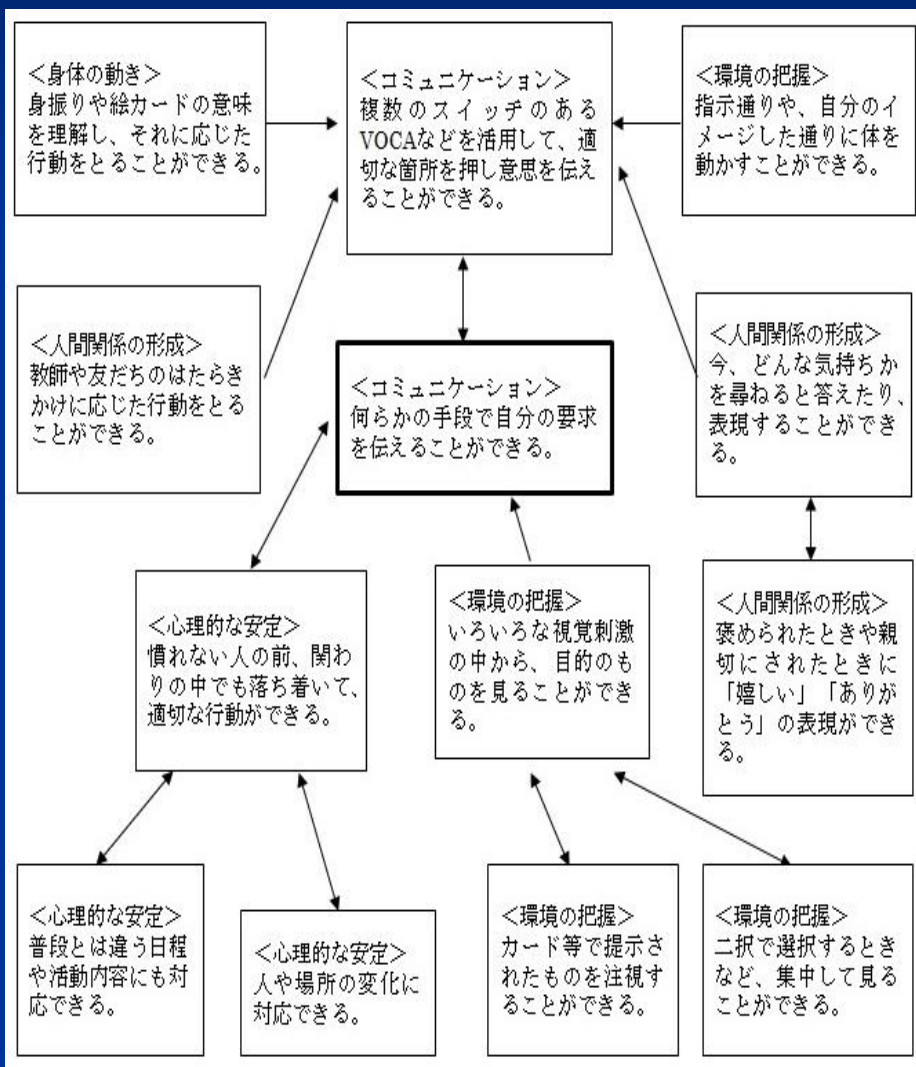


校内研究:「課題関連図」の作成



【3年後にめざす姿】

・慣れない人とかかわりの中でも、やりたいことを発声や指さして示したり、三種類以上のVOCAのスイッチやカードを活用して、意思疎通を図ることができる。

【1年後にめざす姿】

- 1 慣れない人とでもあいさつや係の仕事ができる。
- 2 三種類のカードの中から、適切なものを選ぶことができる。

【指導仮説】

普段、学校生活で関わりの少ない教師と、一緒に活動する機会を増やし、その場面に慣れるようにする。教師が生徒の意思を代弁して問いかける中で、意思決定の場を設け、並行して、VOCAやカードなどのコミュニケーションツールを活用する場面を設定する。簡単な3種類のものからよく見て、選ぶ活動を取り上げる。また、ピックマックなどを用いて、あいさつをし、自分から話しかける場面を増やしていく。

【現在の姿(課題関連図より)】

- ・慣れない人とかかわりや普段とは異なる場所での活動で、極端に発声が少なくなったり表情がくもったりするなどの課題がある。
- ・複数の中から選択することに課題があり、二択で選択するときに注視していないことがある。
- ・誰とでも自分の気持ちを表現するための手段が必要である。

ケース会議を通して・・・

成果

- 「感覚と運動の高次化発達診断モデル」に照らすと、情報が整理しやすい。
- 「発達診断評価」→「目指す水準」→「**発達系統表**」という手続きを経ることで、指導の方向性が明確になる。・・・**目標設定の根拠**
- 「**共通の指標**」として、共有化ができる。

多面的な評価へ

さらに

校内研究の「課題関連図」の取組と併用



「課題関連図」の作成

主な改善点

- ① 自立活動のチェックリストの活用
- ② 「学びの履歴」と「めざす姿」から指導すべき課題を抽出
- ③ 中心課題の明確化、課題相互の関連の検討
→指導目標の設定に至るまでの考え方
(指導仮説)を検討する。



「課題」を考える視点

発達年齢

生活年齢

地域生活

現在と卒業後…

「学校として教えるべき教育 内容を明確化する視点」 からの取組

「年間指導計画」の見直し

生きる力の五要素

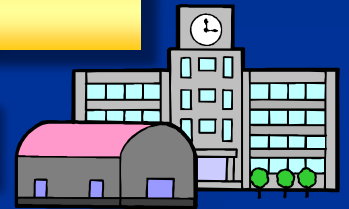
①自ら考え判断すること

②必要な情報を得ること

③意思などを効果的に表現すること

④人と協調すること

⑤健康や体力や身体諸機能の維持・向上



単元構成

反映させる

ねらいの具体化

ねらい：児童が、**主体的かつ総合的・協同的な学習**を通し、生活の中で役に立つ**実践的な力**を身につけることができるようにする。

+

月日	題材・単元名および学習内容	時数	学習上のねらい	指導者
4月09日 4月10日	「新しい学年・新しい教室」 ・個人目標の発表 ・自	2	・友達や先生の好きのやががんばる ことを知ることでも名前を覚え る。 ・個人目標を発表する。	

授業時数の配当

五要素とのつながり